

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																													
専門学校 日産京都自動車大学校		昭和63年3月14日	川嶋則生		〒613-0033 京都府久世郡久御山町林八幡講27番地6 (電話) 0774-46-1123																													
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																													
学校法人日産学園		昭和58年2月15日	神田昌明		〒329-0604 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120番地 (電話) 0285-56-3585																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																													
工業	工業専門課程	自動車整備科		平成20年文部科学省告示 第12号	—																													
学科の目的	自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																																	
認定年月日	平成27年2月17日																																	
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験																												
2	昼	1,900時間	890時間	—	1,010時間	—																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																												
80人	78人	26人		0人	15人	15人																												
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 優(80点以上)、良(60点以上)、可(60点未満) 評価の方法: 筆記試験、実技試験(実習)を実施																													
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■春季:4月28日～5月5日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■秋季:10月28日～11月5日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級 条件	学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ進級・卒業を認める。																													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任による本人面談・三者面談、クラス担任による学修相談、教科担当による補習授業、学年統括による生活指導、専門カウンセラーによるカウンセリング、学生動向の学年情報共有など			課外活動	■課外活動の種類 スーパーGT300レース、スーパー耐久レース 野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、バドミントン部、ロッククライミング部、自動車整備部、自動車競技部など ■サークル活動: 有																													
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 日産園企業をはじめとした自動車開発・研究・製造メーカー 日産販売会社をはじめとした自動車整備業界、など ■就職指導内容 ・オリジナルテキストを用いたキャリア形成教育 ・外部講師によるキャリア育成教育 ・就職先採用担当者による就職ガイダンス など ■卒業者数 55 人 ■就職希望者数 55 人 ■就職者数 55 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和 3 年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>55人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備士</td> <td>③</td> <td>55人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>日産テクニカルスタッフ3級</td> <td>③</td> <td>55人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	55人	53人	2級ジーゼル自動車整備士	③	55人	54人	日産テクニカルスタッフ3級	③	55人	55人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																															
2級ガソリン自動車整備士	②	55人	53人																															
2級ジーゼル自動車整備士	③	55人	54人																															
日産テクニカルスタッフ3級	③	55人	55人																															
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者99名 令和4年3月31日時点において、在学者99名 ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による定期的な個人面談、専門カウンセラーによるカウンセリングなど			■中退率 0 %																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ① 選抜奨学金 特待生奨学金:1年次授業料 250,000円免除 遠隔地奨学金:1年次授業料 250,000円免除 ② 特別奨学金 女子奨学金 :1年次授業料 50,000円免除 企業推薦奨学金:1年次授業料 50,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																	
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 JAMCA(全国自動車大学校・専門学校協会)による、文科省委託事業(第三者評価の実証研究)として受審。 2016年11月25日に受審。結果については、文科省委託事業報告として公開。																																	
当該学科の ホームページ URL	https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/course/carbody.html																																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、養成内容を把握し、具体的な授業科目や教育内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。

また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的に設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
乗地博之	京都府自動車整備振興会 教育課 課長代理	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
平松由揮	滋賀日産自動車株式会社 副店長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
秋山浩志	兵庫日産自動車株式会社 執行役員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
清水正美	京都府自動車車体整備協同組合 副理事長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
高橋治彦	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールス事業本部	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
中村達也	京都サービス株式会社 工場長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
川嶋則生	日産京都自動車大学校 学校長		
鳥井英雄	日産京都自動車大学校 教頭		
武内健二	日産京都自動車大学校 自動車課 課長		
大村哲嗣	日産京都自動車大学校 一級課・車体課 課長		
清水昭一	日産京都自動車大学校 整備課1年・国際自動車整備科1年 課長代理		
山瀬匡隆	日産京都自動車大学校 車体科統括		
当麻範嗣	日産京都自動車大学校 教務課 課長代理		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、5月)

(開催日時(実績))

令和01年度 令和1年5月17日

13:00～15:00

令和01年度 令和02年03月

新型コロナウイルスに伴い実施延期

令和02年度	令和2年7月28日	14:00～16:00	新型コロナ肺炎に伴いWEB会議により開催
令和02年度	令和3年2月5日	10:00～12:00	新型コロナ肺炎に伴いWEB会議により開催
令和03年度	令和3年7月9日	10:00～12:00	緊急事態宣言の発出に伴い日程を延期して開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 ・実作業の訓練頻度が低いという指摘があり、授業時間内での訓練の充実を図る。
 ・留学生の日本語能力をカバーできるよう、留学生育成プログラムを開発する。また、日本語能力に自信がない学生を受け入れる3年課程のコースを新設する
 ・オンライン授業への取り組み、在宅学習による学習環境、在宅勤務による配信環境等、ICT環境の整備を進める。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、就職後に必要とされるお客さま対応技術、電気自動車を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実際の整備・点検を体験し、学校の実習との違いを肌で感じさせる。
 企業からの技術情報を基に授業内容と評価基準を定めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ステアリング・サスペンション	【ステアリング機構】 1. ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの脱着とステアリング装置全体の構造を理解。 2. ステアリング・ギヤ機構の種類及び調整方法の理解。 【サスペンション】 1. 独立懸架式と車軸懸架式の構造を理解。 2. サスペンション(前・後)の脱着作業。	日産自動車株式会社
エンジン電子制御1	1. センサー、アクチュエータの名称と役割を理解する。 2. 圧縮圧力の点検が出来る。 3. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。	日産自動車株式会社
AT	・ATの分解組立と構成部品の構造及び作動を理解する。 ・自己診断ができる。 ・FR車用AT、オルタネータの脱着作業ができる。 ・電子制御回路の点検ができる ・ストールテスト、ATフルードの油量及び状態の点検ができる	日産自動車株式会社
定期点検	・自家用乗用車の1年点検を規程時間内で行える。 ・点検整備記録簿が作成できる。 ・顧客管理システムによる見積もり作成と中間報告ができる。	日産自動車株式会社
車検	・法定2年点検を基準時間で確実にこなせる。 ・定期点検記録簿を漏れなく記入できる。 ・整備結果説明が、スムーズに行うことができる。 ・補器ベルトの交換作業、良否判定ができる。 ・リヤライニングの交換ができる。	日産自動車株式会社

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>教員研修計画に基づき、研修プログラムを企画し、連携企業による研修を実施する。</p>
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「電動パワートレイン技術講座」(連携企業等：日産自動車) 期間：令和3年10月19日(火)～10月21日(水) 対象：自動車整備科教員 内容：電動パワートレインの最新技術について知識と実践を学び、学生のEV授業に活かす</p>
<p>研修名「タイヤ空気充てんの特別教育」(連携企業等：ミシュランタイヤ) 期間：令和3年10月20日(水) 対象：自動車整備科教員 内容：タイヤ脱着に伴う危険性を知り、安全な作業を学ぶ</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「ICT研修」(連携企業等：イーディーエル株式会社) 期間：令和3年10月19日(火) 対象：自動車整備科教員 内容：オンデマンド授業、ライブ授業の実施にあたり、GoogleWorkspaceの効果的な活用方法について知識を得る</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「タイヤ空気充てんの特別教育」(連携企業等：ミシュランタイヤ) 期間：令和4年10月26日(水) 対象：自動車整備科教員 内容：タイヤ脱着に伴う危険性を知り、安全な作業を学ぶ</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「ICT活用実践研修」(連携企業等：NTTラーニングシステムズ) 期間：令和4年3月31日(木) 対象：自動車整備科教員 内容：オン対面授業で活用する場面を想定した授業を体験し、新年度から実践できる導入ヒントをつかむ</p>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、企業等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像等
(2) 学校運営	基準2 学校運営
(3) 教育活動	基準3 教育活動
(4) 学修成果	基準4 学修成果
(5) 学生支援	基準5 学生支援
(6) 教育環境	基準6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ
(8) 財務	基準8 財務
(9) 法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	基準11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果から出てくる案をもとに学内で検討を行い、できることから活用していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
田中存	京都府自動車車体整備協同組合 事務局長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	団体代表
藤本正昭	日産大阪販売(株)BP事業部 部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業代表
中津秀樹	日産サービスセンター株式会社 阪神支社 総務部 総務課 課長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生代表
徳田悦生	(社)京都自動車整備振興会 専務理事	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	団体代表
三浦直也	(株)京都日産 執行役員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業代表
川畑利彦	(株)近畿日産 監査支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業代表
中森耕平	京都府立田辺高校 自動車科	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	高校代表
西村 剛	正和自動車販売株式会社 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://wp.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/wp-content/uploads/2021/09/0b82bb8badcaf93ec8db745e4adb7995.pdf>

令和3年7月2日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動や学校運営に関する情報提供を積極的に行い、関係者の理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標など
(2) 各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3) 教職員	教職員数、組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取組み状況など
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 学校ホームページ

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html>

公表時期: 令和3年5月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 令和4年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			自動車工学基礎	1. 自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。 2. 自動車に係る基本的な原理、原則を理解する。 3. 国家2級試験 工学分野の計算問題を理解する。	1通	62		○			○			○		
2	○			エンジン構造基礎	1. ガソリン・エンジンの構造、作動の理解。 2. 電子制御装置の構造、作動の理解。 3. ジーゼル・エンジンの構造、作動の理解。	1通	86		○			○				○	
3	○			シャシ構造基礎	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。 2. アクスル及びサスペンションの構造、作動を理解する。 3. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの要素や役割を理解する。 5. ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造、作動を理解する。 7. タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1通	82		○			○				○	
4	○			電装品構造基礎	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. 暖冷房装置の構造、作動を理解する。 5. 灯火装置の構造、作動を理解する。 6. 計器装置の構造、作動を理解する。 7. 自動車に使用されている半導体の役割、作動を説明できる。 8. 充電装置の構造、作動を理解する。 9. 点火装置の構造、作動を理解する。 10. 予熱装置の構造、作動を理解する。 11. 多重通信の概要を理解する。	1通	60		○			○				○	
5	○			整備機器取扱	1. 自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1前	23		○		△	○				○	
6	○			エンジン分解組立	1. ガソリンエンジンの構造がわかる 2. エンジン主要部品の名称・役割がわかる 3. 工具・装置の正しい使用法と安全配慮ができる 4. ファンベルトの脱着ができる 5. 計測機器の正しい使用と正確な測定が出来る。	1前	36					○	○			○	
7	○			基礎整備	1. 車両の基本的部分の名称と取扱方法の基本を理解し、安全な作業ができるようにさせる。 2. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができるようにさせる。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。 4. 基本的な点検の必要性を理解し、点検及び交換作業・良否判定ができるようにさせる。	1前	36					○	○				○
8	○			基本電装	1. オームの法則を使い、回路の計算ができる 2. オームの法則を使い、抵抗値、電流値、電圧値を推理できる 3. サーキット・テスタの使用し、回路の測定が出来る。 4. コイルの特徴を実験や測定することで理解を深める。 5. オシロスコープの取り扱い、注意点を学び、直流と交流の違いを理解できる。	1前	36					○	○				○

9	○		工作作業	1. 切削作業を安全に行える。 2. 指定する工作物を、正確に作成できる。 3. 板金塗装の作業内容を理解する。 4. 塗料の種類(成分)を理解する。	1前	38							○	○					○
10	○		エンジン電装	1. 点火装置の構造と作動を理解する 2. 充電装置の構造と作動を理解する 3. 半導体の特徴を実験や測定することで理解を深める。	1前	36							○	○					○
11	○		ステアリング・サスペンション	1. ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの脱着を通じて、ステアリング装置全体の構造を理解する。 2. ステアリング・ギヤ機構の種類及び調整方法を理解する。 3. 独立懸架式と車軸懸架式の構造を理解する。 4. サスペンション(前・後)の脱着作業を理解する。 5. アライメントの測定が正しい手順でできる。	1前	36							○	○					○
12	○		動力伝達1	1. 分解・組付作業を通じて、構造やその作動の理解に繋げる目的で行う。 2. ユニット教材や工具等の取り扱いやその注意点を学ぶために行う。	1前	36							○	○					○
13	○		車体電装	1. 配線図集の使い方を学び、電気装置の基本的な点検方法と考え方を習得する 2. 電装ボードを使用し、電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、故障診断の考え方を学ぶ 4. 車両を用いて灯火装置の点検が出来るようにする。 5. 車両を用いて簡単な故障診断が出来るようにする	1前	36							○	○					○
14	○		ブレーキ1	1. ブレーキ装置の構造と作動の理解 2. ブレーキ装置の整備作業習熟	1後	36							○	○					○
15	○		動力伝達2	1. クラッチの分解組立及び調整ができる。 2. クラッチの構造及び作動が理解できる。 3. 車両からトランスミッション及びクラッチの脱着ができる。 4. クラッチの遊びや不具合現象が理解できる。 5. A/T、トルク・コンバータの概要を理解する。	1後	36							○	○					○
16	○		電気装置	1. スタータ・モータの概要、構造(名称、役割)を理解し、各部の点検方法、使用テストを理解する。 2. ワイパ・モータのLo、Hi、Auto Stopの各々作動と回路図を読み取れる。 3. 指定された条件で、ワイパ回路の点検ができる	1後	36							○	○					○
17	○		エンジン分解始動	1. エンジンの分解始動をするなかで、安全作業を知る。 2. バルブクリアランスの点検調整が出来る。 3. オイルクリアランスの点検が出来る。 4. 冷却装置、潤滑装置の概要と点検が出来る。 5. ファンベルトの交換・調整が出来る。	1後	36							○	○					○
18	○		定期点検	1. 12ヶ月点検項目作業及び日常点検項目を指定された時間で点検する。 2. 定期点検記録簿の記入ができる。	1後	35							○	○					○
19	○		動力伝達3	1. ファイナルドライブ、プロペラシャフトの脱着作業を整備要領書を見て正しく理解した上で作業できる。 2. ファイナルドライブの分解組立により構造・調整方法を理解する。 3. LSDの構造、作動を理解する 4. ユニバーサルジョイントの構造、作動を理解する	1後	36							○	○					○
20	○		エンジン電子制御1	1. 電子制御装置の概要を理解する 2. センサ、アクチュエータの名称と役割を理解する 3. 圧縮圧力の点検が出来る。 4. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。 5. 各センサの電源電圧の測定	1後	36							○	○					○

21	○		ブレーキ2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中・大型車のブレーキ点検方法、整備方法を学習する。 2. ブレーキ・キャリパ、ホイール・シリンダの点検整備方法に習熟する。 3. 真空式制動倍力装置の構造および作動を理解する。 4. 固定型キャリパのパッド脱着が出来る。 5. パーキング・ブレーキの隙間および引き代調整が出来る。 	1後	36						○	○					○
22	○		自動車工学応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家二級試験 工学分野の問題が解け、理論説明が出来る。 2. 国家二級試験 工学分野の問題を理解する。 3. 国家二級試験 電装分野の問題を理解する。 4. 国家二級試験 パルプタイミングの問題を理解する。 5. 全教科書の内容を登録試験問題を中心に理解する。 	2通	99					○	△	○					○
23	○		エンジン構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. LPG・CNG等の燃料装置を理解する 2. エンジンの電子制御を理解する。 3. 4ストローク1サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。 4. 冷却装置の構造、種類、作動を理解する。 5. 潤滑装置の構造、作動を理解する。 6. 吸排気装置の構造、種類、作動を理解する。 7. ガソリン分野では、過給器の構造、種類、作動に関して及び、可変吸気装置、EGR装置について理解する。 8. ジーゼル分野では、可変容量式ターボチャージャ、排気ガス後処理装置に関して、理解する。 9. ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、種類、作動を理解する。 10. エンジンの整備と故障探求の方法を理解する。 	2通	58					○		○					○
24	○		シャシ構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 走行抵抗の種類などを理解する。 2. LSDの構造、作動を理解する。 3. パワーステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの役割を理解する。 5. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造・機能を理解する。 7. 故障診断の考え方を理解する。 	2通	74					○		○					○
25	○		電装品構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーの機能を理解する。 2. 空気調和装置を理解する。 3. 始動装置を理解する。 4. 充電装置を理解する。 5. 点火装置について理解する 6. 予熱装置について理解する。 7. 計器について理解する。 8. 電気装置について理解する。 9. 安全装置について理解する。 	2通	48					○		○					○
26	○		自動車法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道路運送車両法の目的を理解する。 2. 道路運送車両法の検査等を理解する。 3. 自動車の整備事業について理解する。 4. 自動車の保安基準に定められている数値を覚える。 	2後	40						○		○				○
27	○		整備知識	日産資格制度の内容をもとにTS3級の知識を身に付ける	2後	15						○		○			○	
28	○		サスペンション応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクスル及びサスペンションの概要・役割を理解する。 2. Frサスペンション部品の脱着ができる。 3. ドライブ・シャフトの脱着ができる。 4. エアサスペンションの構造、作動を理解する。 5. エア製造系の構造と作動を理解する。 	2前	36						○	○					○
29	○		A/T	<ol style="list-style-type: none"> 1. オートマチック・トランスミッションの構造、作動を理解する。 2. トルク・コンバータのトルク増大作用及び性能曲線の見方を理解する。 3. ブラネタリ・ギヤ・ユニットの増減速を理解する。 4. オートマチック・トランスミッション内部における動力の伝達経路を理解する。 5. 電子制御式オートマチック・トランスミッションの各ソレノイドの役割、コントロールバルブ及び油路を理解する。 	2前	36						○	○					○

30	○		ステアリング応用	1. パワーステアリングの構造・作動を理解する。 2. パワーステアリングの点検ができる。 3. パワーステアリングの故障が判断できる。 4. P/Sフルードのエア抜きが正しくできる。 5. ステアリング関連部品の脱着ができる。	2前	36						○	○						
31	○		ジーゼルエンジン	1. ジーゼルエンジン本体の分解組み立てをする。 2. ジーゼルエンジンの主要部品について理解する。 3. 燃焼室形状の構造を理解する。 4. ライナーの突き出し量の測定ができる。 5. バルブクリアランスの測定・調整ができる	2前	36						○	○						○
32	○		A/T応用	1. FR車用のトランスミッション(AT車)の脱着方法を整備要領書通りに行い、習得する。 2. CVTの構造を理解できる。 3. トルクコンバータの脱着、AT車の安全装置を理解できる。 4. ATFフルードの油量及び状態点検方法を習得する。また、その説明ができる。	2前	36						○	○						○
33	○		定期点検応用	1. 法定点検項目を時間内に点検することができる 2. 法定点検項目の作業項目の習熟 3. 点検箇所の正常と異常の違いが判断できる 4. 点検結果を正しく記録簿に記入できる 5. お客様に中間報告ができる(ロープレ) 6. お客様に商品提案ができる(ロープレ) 7. お客様に追加料金と時間の説明ができる(ロープレ)	2前	36						○	○						○
34	○		エンジン電子制御2	1. 電子制御エンジンの各センサの入出力値を測定できる 2. 測定値の意味が分かる 3. 制御内容を理解する	2前	36						○	○						○
35	○		電装品整備1	1. TS3級の技術能力要件の電圧点検、エアコン関係の作業ができる。 2. 電動格納ミラーの電圧点検が行う事ができる。 3. エアコンについては、整備要領書にしたがって性能点検ができる。	2前	36						○	○						○
36	○		大型車整備	1. エア製造系の構造と作動を理解(復習)。 2. エア式・複合式ブレーキ装置の構造・作動を理解する。 3. インタ・アクスル・ディファレンシャル、エキゾーストブレーキについて理解する。 4. 貨物車を正しい手順で分解、組立、故障探究ができる。 5. 大型車の動力伝達装置に使用されている各機構を理解できる。	2後	36						○	○						○
37	○		エンジン電子制御3	1. 電子制御の理解(噴射量制御と点火時期制御、アイドル回転数制御、フェイルセーフ機能、インジェクタ駆動回路の故障診断) 2. 各種センサーの電源、信号電圧測定、点検部位に対し、配線図から必要な回路を抜き出して点検箇所にテストが当てられる 3. コンサルトⅢの接続、立ち上げ、自己診断、データモニタ表示を行なう 4. 実際に一般道を走行している車両の整備全般ならびに法定点検の実施	2後	36						○	○						○
38	○		電装品整備2	1. 電位測定、電気信号の観測や点検が車両で出来る。(パワーウィンドウ) 2. 配線図集より必要な回路を抜き出し、電気回路が読める。(ESMを使用) 3. 車両に関する電気装置の脱着が出来る。(パワーウィンドウ・レギュレータ脱着) 4. オルタネータの脱着が車上でできる	2後	36						○	○						○
39	○		エンジン脱着	1、車両からパワートレインASSY脱着～エンジン始動させる。	2後	36						○	○						○
40	○		車検	1. 2年点検を実施できる 2. 保安基準について理解する 3. 指定整備記録簿を記入することができる 4. お客様に整備結果説明ができる	2後	36						○	○						○

41	○		総合整備	1. 日産3級技能要件の確認 2. コンサルトⅢの取扱いが出来る。 3. 各種点検(新1、新6、安心6か月)が出来る。 4. 各種作業(ブレーキ、エンジン周り、パンク修理等)が出来る。 5. 車両取扱い時の注意事項を熟知している。 6. 就職後の車両取り扱い・作業全般を身に付ける	2後	36									○	○		○
42	○		電気自動車	1. EV基礎教育の修了(低圧電気取扱い者講習修了) 2. 先進安全装備のキャリブレーションの知識が習得できる	2後	36									○	○		○
43	○		電装品整備3	1. 回路図から不具合箇所を推定し、テスターで証明することができる 2. 電流、電圧降下の点検ができ測定結果から正常・異常の判断が出来る。 3. オートエアコンの概要を理解する。 4. オートエアコンに使用されているセンサと取付位置、役割を理解する。 5. オートライトの作動および感度調整要領を理解する。6. ウィンドウ撥水の施工方法を理解し実際に施工できる	2後	36									○	○		○
44	○		日産3級	日産販売会社の整備士として修得すべき知識を学習する。	2後	35								○			○	○
45	○		国家試験対策講座	国家試験に向け、すべての授業を総復習し、理解の確認をブラッシュアップする。	2後	65								○			○	○
合計					45	科目	1900単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等		
学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ卒業を認める。			1 学年の学期区分	2期
			1 学期の授業期間	25週
(留意事項)				
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合				
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。				